

令和3年度 富士河口湖町総合教育会議 議事録

日 時：令和3年11月24日（水）13：25～14：55

会 場：役場3階 304会議室

出席者：町長、副町長、渡辺政孝教育長、倉澤秀委員、梶原作造委員、

小林和子委員（教育委員会）

学校教育課 — 渡辺課長、

生涯学習課 — 外川課長

文化振興局 — 梶原局長

教育センター — 梶原センター長

（事務局）

渡辺政策企画課長、半田係長、外川、堀内

1. 開会
2. 町長あいさつ
3. 協議

・学校教育課より

【教育長】

資料「令和3年度富士河口湖町学校教育関連施策」の説明をいたします。

コロナ感染予防の観点から、実際には資料に書いてあるとおりのことをできないこともあります。例えば、2 豊かな心の育成のために（3）郷土を愛する心情を育てるの中の富士登山事業は昨年度・今年度ともに実施不可能でした。自然観察教室等につきましても規模を縮小しての開催ということで、教育関係で人を集めて何かをするというのが厳しいというのが実態です。

そうした中ですが、昨年度小学校・今年度中学校で学習指導要領が改定されまして、道徳や ICT 教育、プログラミング教育を行う上でタブレット等が導入されています。しかし、そのあたりにつきましても中々一斉にというのは厳しい状況であるようです。教育委員さんには学校訪問で授業参観をみていただいて、タブレットを活用している姿をみてもらっている。子どもは全員マスクをしており、班グループで学習というのができない。教師と子供が向き合う形での授業形態しかとれない状況です。本当は小グループや中グループなどいろいろな授業形態を作って学習を進めたいが、それがままならない現状です。さらに、音楽において合唱してはいけないということ、なんとかマスクをしての歌唱指導をしています。器楽指導も一斉に指導ができない状況があります。また、体育での水泳については、郡内の学校は室内プールが多い関係や着替える環境の問題があり、町においては昨年度に引き続き水泳指導ができていません。

関連施策について、コロナ禍ということでできないこともあるということをご承知いただければと思います。

資料「総合教育会議資料」の説明

【教育センター長】

資料「令和3年度富士河口湖町総合教育会議資料」の説明

安心感 居場所づくり 自立をモットーに運営しています。

地域で育てるということを念頭に活動していきます。

・懇談、意見交換

【町長】

意見の懇談をしていきたいと思います。

プールの現在の利用状況はどうなっているのか。

富士吉田では2校に1校にし、近くの学校にバスで送っている。町においては、他の学校だけでなく、町民プールの利用等が考えられる。

そういったことを踏まえて、現在の状況を教えていただきたい。

【学校教育課長】

コロナの影響でプールを使った授業は行っていない。また、夏季休暇の利用も行っていない。また、プールの老朽化が進んでおり、設備の改修をしなければならない。使う予定のプールは改修予定。南岸継続予定。大石河口はいずれかのプールを使用予定。その他の学校については町民プール使用予定。

【町長】

校長先生は承知済みか。トラブルを避けるためにも保護者等への説明も必要。

【教育長】

河口湖北中においてはすでに町民プールを利用している。大嵐小学校は西浜小学校へ行っている。そういったことをすでにしているので、モデルにして進めていきたい。

また、町民プールの場合はブルーアースの指導員がおり、先生方の負担を減らすことができることや子どもたちの泳力向上につながるため、すでに各学校において指導をしていただいている。

すべての学校にプールがあるのが理想だが、維持管理の問題や夏季休暇の子どもたちの利用の低下、先生方の負担を減らすことなどを踏まえ、他の学校のプールの利用や町民プールの利用は校長先生の了解は得ている。来年度からそういった状況になることを保護者の方にも説明をしていただいている。

【町長】

その他教育委員会さんから何かありますでしょうか。

【倉澤委員】

I C Tの活用につきまして、学校訪問の際見てきたが今はまだ機械に慣れるという段階に感じた。これからは情報社会に対応した主旨にあったように進めさせていただきたい。

1/4の学校では端末を持ち帰っている。定着させるには持ち帰ることが良いと思う。

【町長】

誹謗中傷等の問題があり、現在は学校の保管庫に置き持ち帰りはできない状況。確かに定着という意味では家庭に持ち帰るのが一番ではあると思う。

【梶原委員】

学校訪問において、小規模校の先生方の負担を感じた。I C T教育において、先生の指導力不足が挙げられていたが、インフラ整備が足りないのだと思う。

指導者を増やすためにも環境の整備が必要。

コロナということで集まる事業がなくなっているが、コミュニケーションというのは必要なものである。中止に胡坐をかかずに再開する方向で進めていただきたい。

25人学級について、27・28人ではダメなのか。増やした教室がゆくゆくは負の遺産となってしまう。もう一度考えることも必要だと感じた。

【小林委員】

コロナということで先生と保護者のコミュニケーションができずに問題が起きてしまうかもしれないと感じた。

給食の無償化をこれからも続けていただきたい。

【町長】

子どもたちの支援を国がやらなければ、人口はこれから減っていく。

移り住んでもらうためには魅力的な政策をつくらなければならない。

子育てをやりやすいまちづくりが一番。

【副町長】

学校の先生方への負担は年々上がってきている。

教育は地域全体でやらなければならないが、今は学校が背負ってしまっている。教育行政が更なる充実を図って、健全教育を行っていく。